

Screening Producer Special Interview



「誰もが安心して認知症になれるまち」を目指して一町田・おれんじ薬局の挑戦

「誰もが安心して認知症になれるまち」を目指し、認知症当事者が安心して暮らすためのまちづくりに取り組む東京都町田市。地域の薬局で認知症カフェ（Dカフェ）※の運営に携わり、2024年4月30日（火）に2回目の『オレンジ・ランプ』上映会を主催された「おれんじ薬局」の井上俊さんに、町田での活動の軌跡を伺いました。

町田の凄いところ、お伝えします！

〈井上 俊さん〉

大手調剤薬局勤務時代に東京都町田市に転勤となる。町田市の鶴川サナトリウム病院で実習を行った際、認知症高齢者の中に栄養状態が悪い方がいることを知り、在宅医療に関わり始める。「認知症と栄養」というテーマで薬局を開く夢を持ち、2019年、町田市金井で「おれんじ薬局」を開局。

※認知症カフェ：認知症の当事者やそのご家族が、地域の人や医療・介護に関わる人たちと交流し、情報共有ができるカフェ。町田市では「Dカフェ（認知症を意味するDementiaの頭文字）」と呼称している。



—上映会を開催しようと思われた理由を教えてください。

認知症をより広く知ってもらうため、2024年2月に「Dサミット」という町田市の認知症の普及啓発イベントで上映会を開催しました。定員を超える応募があり、追加上映の要望もたくさんいただいたので、二回目の上映会の開催に至りました。

—上映会開催に向けてどのように準備をされましたか？

実行委員会のメンバーであるDフレンズ町田という団体を通じて当事者の方々へ協力要請をかけました。Dフレンズ町田は、普段は認知症当事者やご家族のための相談事業等を行っている団体です。また前回の「Dサミット」ではDフレンズ町田が行政と一体となってワークショップの企画運営を主導していたため、その時のメンバーにも協力を要請しました。民間団体・地域の協力者・行政が密接に連携して活動を展開しているところが、町田の凄いところだと思います。



—上映会を開催してみた感想を教えてください。

今回は主人公のモデルになった丹野さんをお迎えし、認知症当事者3名の方にも登壇していただくトークショーを実施しました。当事者の生の声を聞くこともできたので、認知症に関する不安を軽減し、勇気を与えることができたと思います。

—今後上映会を開催される主催者の皆さんに向けて、アドバイスをお願いいたします。

認知症に不安を抱いている当事者やご家族に、勇気と希望を与えることができる機会になります。

—地域でのご活動についてお伺いします。ご自身の経営する薬局で認知症カフェ（Dカフェ）を開催されるようになった経緯を教えてください。

認知症に特化した薬局としてDカフェをやりたいと開局時から考え、『オレンジ・ランプ』の認知症当事者の本人会議の場面を見て「こんなカフェができたらいいな」と構想を練っていました。Dカフェの運営等に精力的に取り組んでいるDフレンズ町田の代表・松本礼子さんにサポートしてもらい、現在は月1回、第2木曜日の午後2時～3時半に、参加無料の「おれんじカフェ」を開いています。

カフェには当事者の方、ご家族の方だけではなく、地域の方も来ます。「ご近所の方が認知症ですが、どう声をかけたらいいでしょうか」というご相談もあります。色々な方がご相談に来られるカフェの体制を整えることで、「なんでも相談に来られる薬局」と思っていたきたい、という思いがあります。



▲主人公のモデルであり若年性認知症当事者の丹野智文さん

—お薬の飲み忘れや重複服薬などを防ぐうえで、地域の薬剤師の方の役割は大きいと思います。認知症のケアに関わる意義について、日々どんなことを感じていらっしゃいますか。

服薬管理の役割もありますが、健康状態の確認や見守りを担うこともあります。ケアマネジャーから依頼を受けて毎週、認知症の方のお薬カレンダーに薬をセットしに行くこと等もあります。薬剤師が認知症に関わる機会が多いと思いますので、認知症というテーマに関心を持ってくれる薬剤師の方や薬局が少しでも増えてくれればいいな、と思います。